地域子育て 応援マーク

私たちがこのマークに込めた思い

私たちが「いずみのひろば」を運営する中で**「赤ちゃんが泣きやまないと肩身が狭いから外出をためらう」「イヤイヤ期まっさかりの我が子。躾ができていないのでは？と見られているようで緊張する」**というお母さんたちの声を聴きました。

一方、**「自分の子育て中もそうだった。気持ちがすごくわかる」「自分もそうして育ったんだからと思うと気にならない」**という声も地域の中にたくさんあることがわかりました。それでも「わざわざ声をかけるきっかけがない」「大変そうだな、がんばってるね、と思っても、**勇気がなく素通りした**経験がある」という話もありました。

それではこの両者をつなげよう。**あなたのがんばりを見守っている人が、この地域にはこんなにいるよ**というメッセージを伝えよう。そんな思いがきっかけになりました。

このマークは、この地域で乳幼児の子育てをしている保護者の方とお子さんを、温かく見守っている地域の人がたくさんいるということを可視化するもので、バッグなどにつけるチャームとして、たくさんの地域の方につけて意志表示をしてもらおうというものです。

私たちの願いは、そうやって見守られて育った子どもたちやその親が、やがて地域の中にある高齢であったり障がいであったりという、様々な事情を抱える方たちに心を向けることにつながり**「お互いがお互いの事情を思いやる温かい地域」**を目指すものです。この活動は、その第一歩だと考えています。

特定非営利活動法人いずみの会
会長　近藤和義

※チャームの製作費の一部は、キリン福祉財団「地域のちから応援事業」の助成を受けています。